



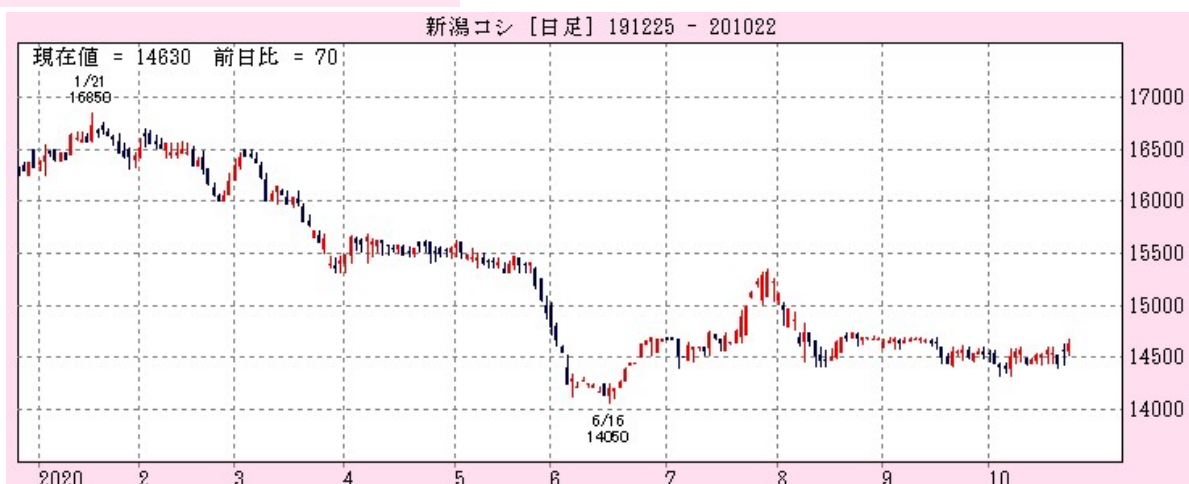
月2回のお米

コメ市場に関する情報がここに凝縮されています。
毎月第2・第4木曜日 夕方発行



新潟コシヒカリ

発行日 : 2020/10/23

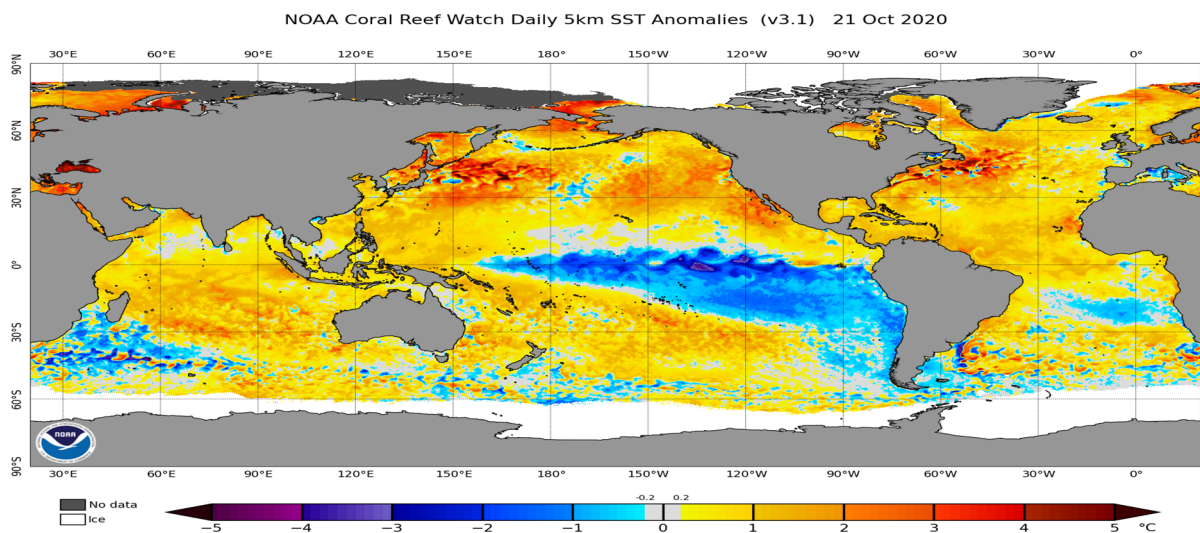


TOPICS 3年ぶりにラニーニャ現象が発生している

気象庁は10月9日のエルニーニョ監視速報で『夏からラニーニャ現象が発生しているとみられる。今後冬にかけて、ラニーニャ現象が続く可能性が高い(90%)』と述べている。

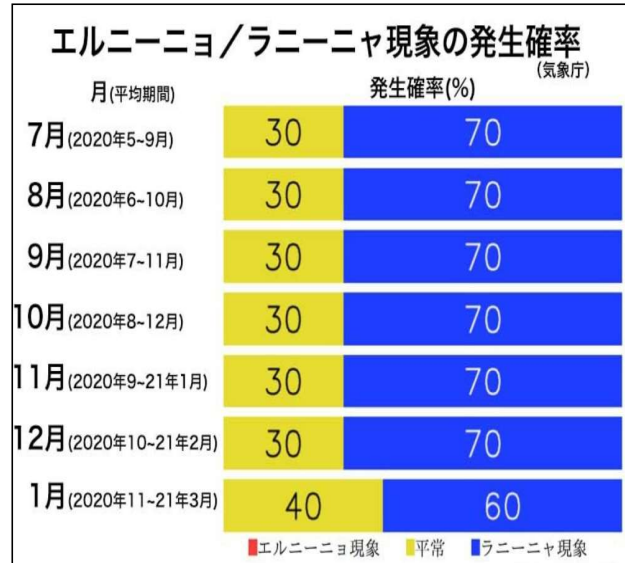
下の地図は10月21日の世界の海面水温(NOAA:米国海洋大気庁による)で、チリ沖からインドネシアにかけて青い冷水域があることがわかる。ラニーニャ現象は2017年秋~18年春以来で、ラニーニャ現象の発生時は、北西太平洋の対流活動が活発になる傾向。ウェザーニュースで台風やハリケーンの予測を行うグローバルストームセンターの見解では、9月~11月にかけての台風の発生数が平年並みになると見ている。

ラニーニャ発生時の冬の天候は統計的に目立った特徴はないものの、偏西風の蛇行を引き起こして、日本付近に寒気の流れ込みやすいパターンになる。前回ラニーニャ現象が発生した2017~18年の冬は平均すると全国的に寒い冬となった。3か月予報では、11月から気温が平年並みに戻る予想。高温傾向が続く秋から冬になり一変するのか、注目していく必要があるという。



気象庁 エルニーニョ監視速報 (No.337)
2020年9月の実況と2020年10月～2021年4月
の見通し 気象庁 大気海洋部

令和2年10月9日
夏からラニーニャ現象が発生しているとみられる。
今後冬にかけて、ラニーニャ現象が続く可能性が
高い(90%)。



タイは今年も冬季は水不足になるという

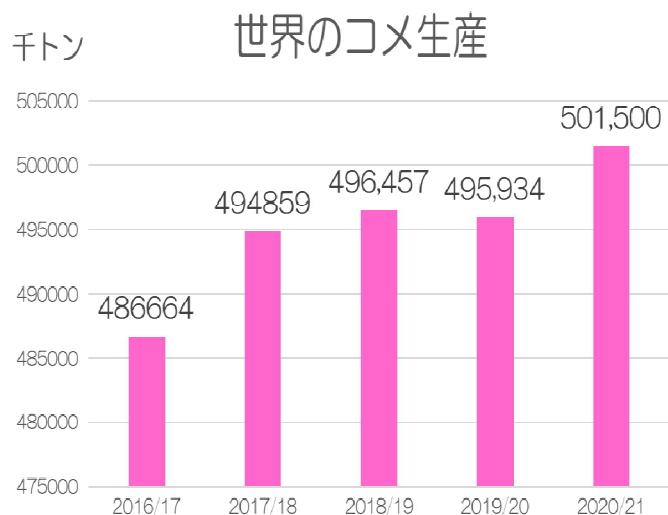
タイ農業・協同組合省灌漑局のタウィサック副局長は、雨期の主要ダム貯水量増加ペースが低調のため、2020/21年乾期(20年11月～21年4月)も前期同様に水不足に見舞われるとの見通しを示した。

TOPICS 10月14日付 USDA Rice Outlookより

2020/21年度の世界のコメの生産量は5億トン

2020/21年度の世界のコメの生産量は過去最大の5億150万トン(精米ベース)と前年度より+190万トン、+1%増加の見込み。収穫面積は1億6,230ヘクタールと前年とほぼ変わらず。一昨年よりは+1%増。

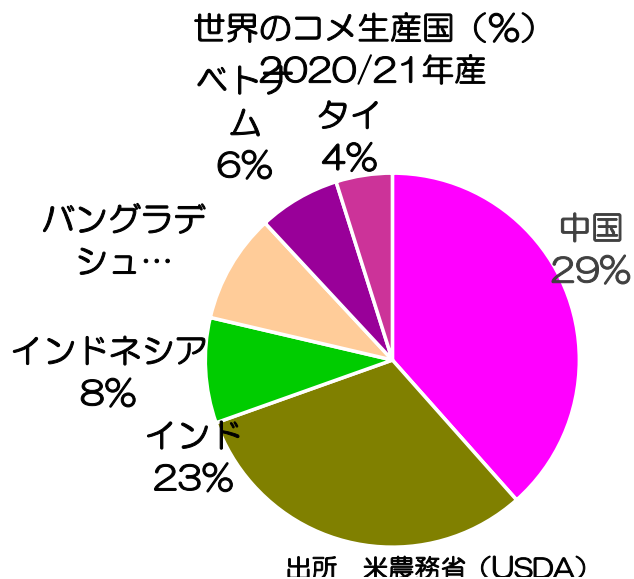
インドが前年比+160万トン増、米国が+130万トン増、タイが+95万トン増、これら3カ国の増産は、収穫面積の増加によるもの。その他、アルゼンチン、豪州、バングラデシュ、ビルマ、カンボジア、中国、インドネシア、韓国、パキスタン、サハラ以南のアフリカが前年度より生産増となった。コメの生産が減少した国は、アフガニスタン、ブラジル、コロンビア、エジプト、イラク、フィリピン、スリランカ、ベトナムであった。



2020/21年度の世界のコメの消費量は4億9,940万トン

2020/21年度の世界のコメの消費量は前年比+300万トン増、+1%増の4億9,940万トンの見込み。インドの消費量が前年比+200万トン増と大きく伸び、1億600万トンになった。これはインド政府が3月初めから小麦や米を約8億トン市民に提供するTargeted Public Distribution Systemを実施したためである。

20/21年度で最もコメの消費が増加したのは中国で、コメの工業用途が増加した。バングラデシュ、ビルマ、カンボジア、EU、フィリピン、米国、ベトナムも増加する。対照的に日本、韓国、ナイジェリアのコメの需要は減少する見込み。長期的な収入減に伴うダイエット傾向がある模様。



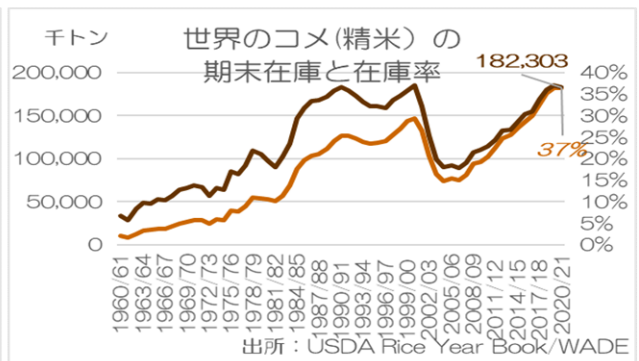
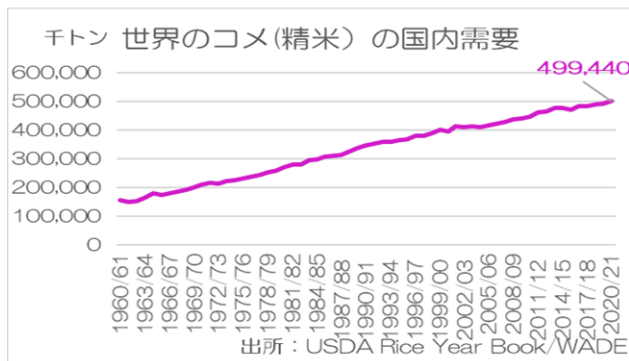
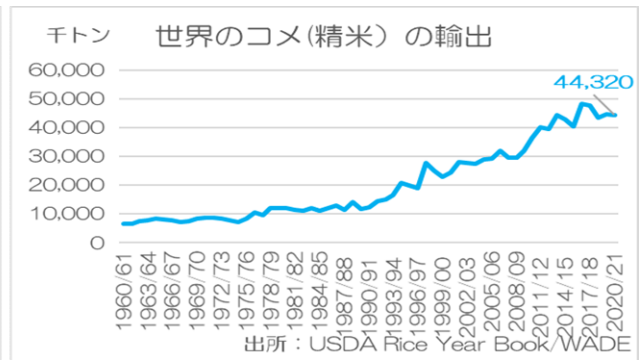
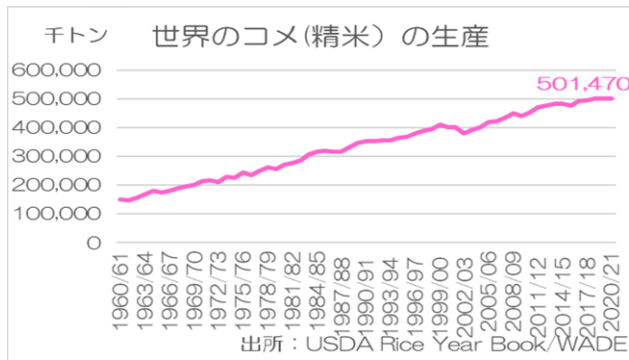
2020/21年度の世界の期末在庫は先月の1億7920万トン

期末在庫は先月の予想より▲570万トン下方修正され、それでも昨年の期末在庫よりは+1%多く、過去最大となる。コメの在庫は14年連続で増加している。インドの期末在庫は減少する。前月の予想より▲650万トン下方修正となったが、昨年よりは+150万トン多い。インドと共に米国の期末在庫は増加する。世界の期末在庫の65%は中国が保有し、インドは35.8%である。需要に対する在庫率は35.9%と予測されている。19/20年度の在庫率は35.8%だった。過去最大の在庫率は2000/2001年度の37.3%である。

2021年のコメの貿易量は+3%増

2021年のコメの貿易量は精米ベースで4,420万トンになり、前回の予想より▲20万トン下方修正されたが、前年度より+3%多い。タイとパキスタンからの輸出が下方修正され、インドが上方修正となっている。輸入はフィリピン▲40万トン下方修正され、サウジアラビアやスリランカが上方修正された。バングラデシュ、ナイジェリア、スリランカの輸入は2017年以来の少ない水準となると見られている。これらの国は長期的に減少傾向にある。また、コートジボワール、イラン、イラク、ナイジェリア、フィリピン、UAEの輸入は増加し、豪州、ブラジル、中国、エジプト、インドネシア、メキシコ、トルコの輸入は減少する。

2021年タイからの輸出が+150万トン増と最も多く増える。豪州、カンボジア、インド、パキスタンからの輸出は増加する。逆に、アルゼンチン、ブラジル、ビルマ、パラグアイ、ベトナムからの輸出は減少する。ブラジルとベトナムからは▲30万トン減少する。



輸出価格は▲4～5%安

タイ産の通常精米される白米価格はこの数ヵ月▲4～5%安くなっている。新規販売の欠乏、タイパーツ安、非アロママが利月に収穫期を迎えていること等が原因と思われる。タイの100%グレードB、長粒米は、10月5日までの週にトン当たり480ドルと見積もられ、9月7日までの週から▲20ドル安となった。タイの5%ブローケンParboiled米の価格は、10月5日までの週にトン当たり475ドルと見積もられ、9月7日までの週から▲25ドル下落した。タイのジャスミンライス（プレミアムアロマ）の価格は、今月収穫が始まったため、9月7日までの週から▲8%下落し、10月5日までの週にトン当たり848ドルと見積もられた。

ベトナムの米の価格も、新規売り上げが少なく、10ヶ月目の収穫が始まったため、この1ヶ月間で価格は下落している。10月6日までの週は、ベトナムの5%のBroken kernel長粒精米価格は、（最近収穫された秋の作物）の価格はトン当たり465ドルで、9月8日までの週から▲10ドル低下した。

ウルグアイ産長粒精米の高品質米の価格は、前月からトン当たり+\$85-\$95上昇した。南半球の南米の主要輸出国は、5月下旬に2019/20の収穫を完了し、現在、輸出可能な米の供給は限られているため、南米産コメの価格は上昇している。

米国の長粒米精米価格はこの数ヵ月価格は変わっていない。2019/20年の作物からの供給がほぼすべて販売され、デルタでの2020/21年の収穫が遅れているため、輸出可能なコメの供給は依然として非常に少ない。米国産長粒米精米No2グレード、4%Broken Kernels価格はイラクスペックのメキシコ湾岸FOB価格でトン当たり、10月6日現在625ドルを保っている。これは9月8日から変わっていない。ハイチ、コロンビア、メキシコ等のラテンアメリカ精米市場では10月6日時点で550ドルで変わらずとなっている。こちらも9月8日から変わっていない。

一方カリフォルニア精米価格はこのところ下落している。早場米で19/20年度の生産量が+7%多かったためでもある。カリフォルニアNo.1 グレード4%Broken Kernelsは10月6日時点でトン当たり850ドル（FOB国内精米所渡、地中海スペック）で9月8日から▲55ドル下落している。カリフォルニア州オーランド港渡の中粒米精米価格（韓国スペック）の10月6日の価格は、トン当たり940ドルで、9月8日以来▲35ドル安となっている。

TOPIC s 2020年に1100万トンに達する見込みのインドのコメ輸出高

インドの輸出は2021年に再び増加し、USDA（米農務省）の予測によると1100万トンに達し、世界最大の地位を確保する見通しである。

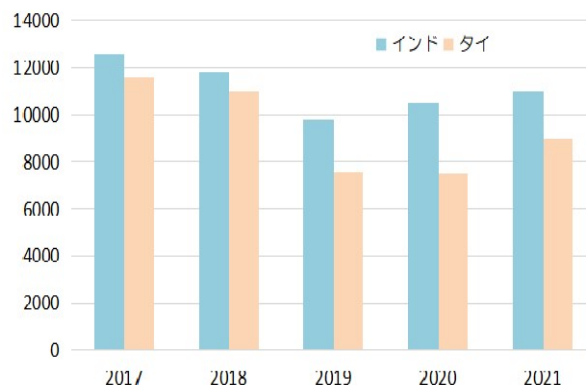
2020年は、タイのコメ輸出予測が900万トン、ベトナムが640万トンであることからすると、タイよりも200万トンも多い。世界全体に対する占有率も24.5%に達する。

占有率は、2位のタイが20%、3位のベトナムが14%であることからすると、高い水準である。

インドは、2011年に米輸出禁止を廃止して以来、増加の傾向にある。インドの輸出が再び増加するとの見通しであるのに対し、タイの輸出は1998年以来最も低い水準にとどまる見通しである。2021年はタイの輸出が増加に転じる見通しであるものの、インドの輸出も増加するため、インドの世界一の輸出国としての地位は確保される。

インドとタイの米輸出の推移

単位1000トン ※USDA



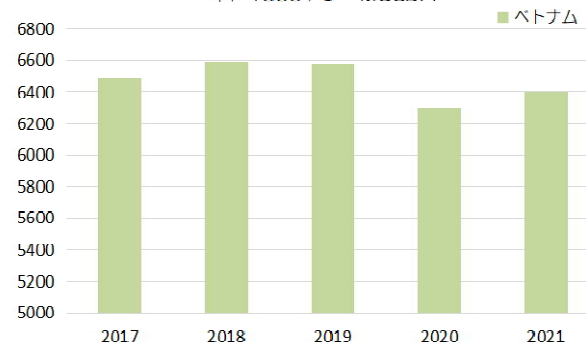
TOPIC s ベトナムのコメ輸出も増加

ベトナムのコメ輸出に関しては、新型コロナウイルスによる影響で国内の食料確保を優先させるため、今年3月からコメの輸出一時停止していたが、4月10日からコメの輸出禁止措置を解除している。

国際連合食糧農業機関（FAO）によると、ベトナムは、インド、タイに次ぐ世界3位のコメ輸出国。また、4月14日付「VNエクスプレス」によると、2019年は、637万トン（28億1,000万ドル相当）が、フィリピン、マレーシア、中国などへ輸出された。

ベトナムの米輸出の推移

単位1000トン ※USDA

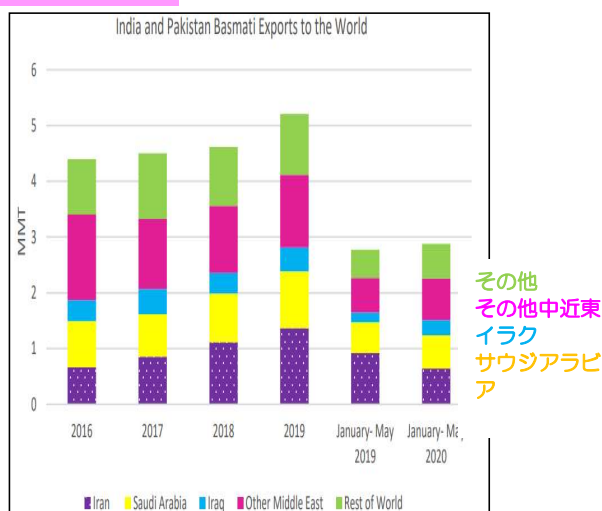


TOPIC s インドとパキスタンの長粒米の輸出が増大

インドとパキスタンからのバスマティ米（長粒米）の輸出は、過去の数年において、中東の地域が主な輸出先であるが、近年は増加の傾向にある。2016年から2019年までは年々、漸増の傾向となっており、2020年の1-5月においても、前年同期を上回っている。

今年の1-5月は、イランへの輸入は減少したにもかかわらず、その他のほとんどの輸入先では成長している。バスマティ長粒米は、多くの南アジア人と中東国の人々の主食であり、グラフが示すとおり、イランとイラクが主たる輸出先にあり、その他の中東国も多くを占めている。

2019年は、インドが占めるバスマティ長粒米の輸出は約85パーセントを占めており、インドの輸出は秋の収穫後に増え、パキスタンからの輸出は年を通じて行われている。



今後の見通し

世界のコメの生産量（精米ベース）は5億トンを超えた。世界のコメの生産量は右肩上がりに上昇している。一方世界のコメの需要も右肩上がりで増加している。これは、日本のコメの需要が右肩下がりで減少していることと対照的である。アジア諸国は当然であるが、これまで米食が少なかった欧米諸国でも以前よりコメの需要が増えている。世界的にはコメは小麦や粗粒穀物等と並んで主要な食料になっている。依然中国とインドで世界の半分以上のコメの需要を占めているが、コメの需要国は多様化傾向にある。コメの輸出はインド、タイ、ベトナム、パキスタン等が多いが最近では中国も輸出を始めている。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

発行元：



株式会社コモディティー インテリジェンス
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
メールアドレス：kondo@commi.cc